



独立行政法人

国立病院機構

National
Hospital
Organization

~ since2004 ~



◆ 国立病院機構の理念 ◆

私たち国立病院機構は
国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに
患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

◆国立病院機構の概要◆

私たち国立病院機構は、全国 143 の病院を一つの組織として運営する独立行政法人です。

そもそも、全国に展開する国立病院・療養所は厚生労働省が運営してきましたが、病院の自主性・自律性を活かして、医療サービスの向上や効率的な運営を実現するため平成 16 年に独立行政法人となり、また、平成 27 年 4 月 1 日からは『国民向けサービス等の業務の質の向上を図ること』を目的とし、中期目標管理により高い自主性・自律性を発揮しつつ事務・事業を行う法人として、中期目標管理型の『非公務員型』法人へ移行することとなりました。

国立病院機構は、【医療の提供】、【臨床研究の推進】、【医療従事者の養成】という3つの業務を行っており、急性期治療から慢性期治療まで約 5.5 万床の病床と、約 6 万人の職員からなる、我が国有数の病院ネットワークを有しています。

私たちは、この医療資源を活かして、地域の医療に貢献し、住民の皆様の支えになりたいと考えています。また、多くの治療実績から得られる豊富な診療データを活かして、臨床研究や治験に積極的に取り組むとともに、医師・看護師をはじめとする医療従事者の養成にも力を入れており、我が国の医療の水準の向上に貢献しています。

●設置根拠

独立行政法人国立病院機構法に基づく独立行政法人

●国立病院機構の行う業務

- ①医療を提供すること
- ②医療に関する調査及び研究を行うこと
- ③医療に関する技術者の研修を行うこと
- ④上記に付帯する業務を行うこと

●組織の規模（平成26年4月1日現在）

病院数：143 病院

病床数：51,750 床（全国シェア 3.3%）

一般病床	結核病床	精神病床	その他	計
45,875	1,688	4,017	170	51,750

臨床研究センター：12 病院 臨床研究部：71 病院

附属看護師等養成所 看護師課程：39 校 助産師課程：5 校

リハビリテーション学院：1 校

●職員数〔常勤〕（平成26年1月1日現在）

全国：約 58,000 名 九州：約 11,000 人

	医師	看護師	事務	その他
全国	約 6,000 人	約 37,000 人	約 2,500 人	約 12,500 人
九州	約 1,200 人	約 5,800 人	約 500 人	約 3,500 人

◆国立病院機構の特徴◆

国立病院機構の特徴は、何と言っても 143 の病院が 1 つの法人として医療グループを形成している点にあります。実際には、結核、感染症、がん、循環器病、重症心身障害、筋ジストロフィー、神経難病などの重要で国民の関心が高い疾患を 19 分野に区分し、分野ごとに全国的なネットワークを形成して取り組むようにしています。このネットワークを活かして集めた豊富な症例を基に、我が国における医療の質の向上や標準化に貢献しています。



◆国立病院機構が目指すもの◆

■ 医療の提供について

●患者の目線に立った、国民に満足される安心で安全な質の高い医療の提供

患者が、疾患や医療の内容を十分に理解し、自分にあった治療法を選択できるよう、わかりやすい説明と相談しやすい環境作りを推進しています。

また、がん・精神・脳卒中・急性心筋梗塞および糖尿病の 5 疾病並びに救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療および小児医療の 5 事業を中心に、地域の医療機関との連携強化を図っています。

●各病院の機能や特性を生かした政策医療の推進

各病院の特性に応じ、難治性の疾患等に関し、「診療」、「臨床研究」、「教育研修」、「情報発信」が一体となった医療提供体制の充実を図っています。

そして、同じ政策医療分野を担当する施設群が、その果たすべき役割を適切かつ効果的・効率的に遂行する観点から、全国的なネットワークを活用していくこととしています。

■ 研究と教育について

● 臨床研修や治験の推進

国立病院機構 143 病院のネットワークを活用して診療の科学的根拠となるデータを集積し、我が国の医療の質の向上に資するために情報発信を行っています。

また新薬等の開発のために、迅速で質の高い治験を実施するための体制整備にも積極的に取り組んでいます

● 教育研修などを通じた質の高い医療人の育成

国立病院機構の特色を生かした臨床研修プログラムやキャリアパス制度により、質の高い医療従事者の確保・育成に努めています。さらに EBM（科学的根拠に基づく医療）の成果の普及や医療の地域連携促進などを目的として、地域の医療従事者及び地域住民に対する研修事業の充実を図っています。

■ 緊急医療支援について

● 救急医療・小児救急等の充実

地域の住民と地域医療に貢献するため、国立病院機構では救急医療・小児救急等に積極的に取り組んでいます。

● 災害等における活動

災害などが発生した場合には、国立病院機構の全国ネットワークを活用し、いち早く医療班や DMAT を派遣するなどの対応を行っています。

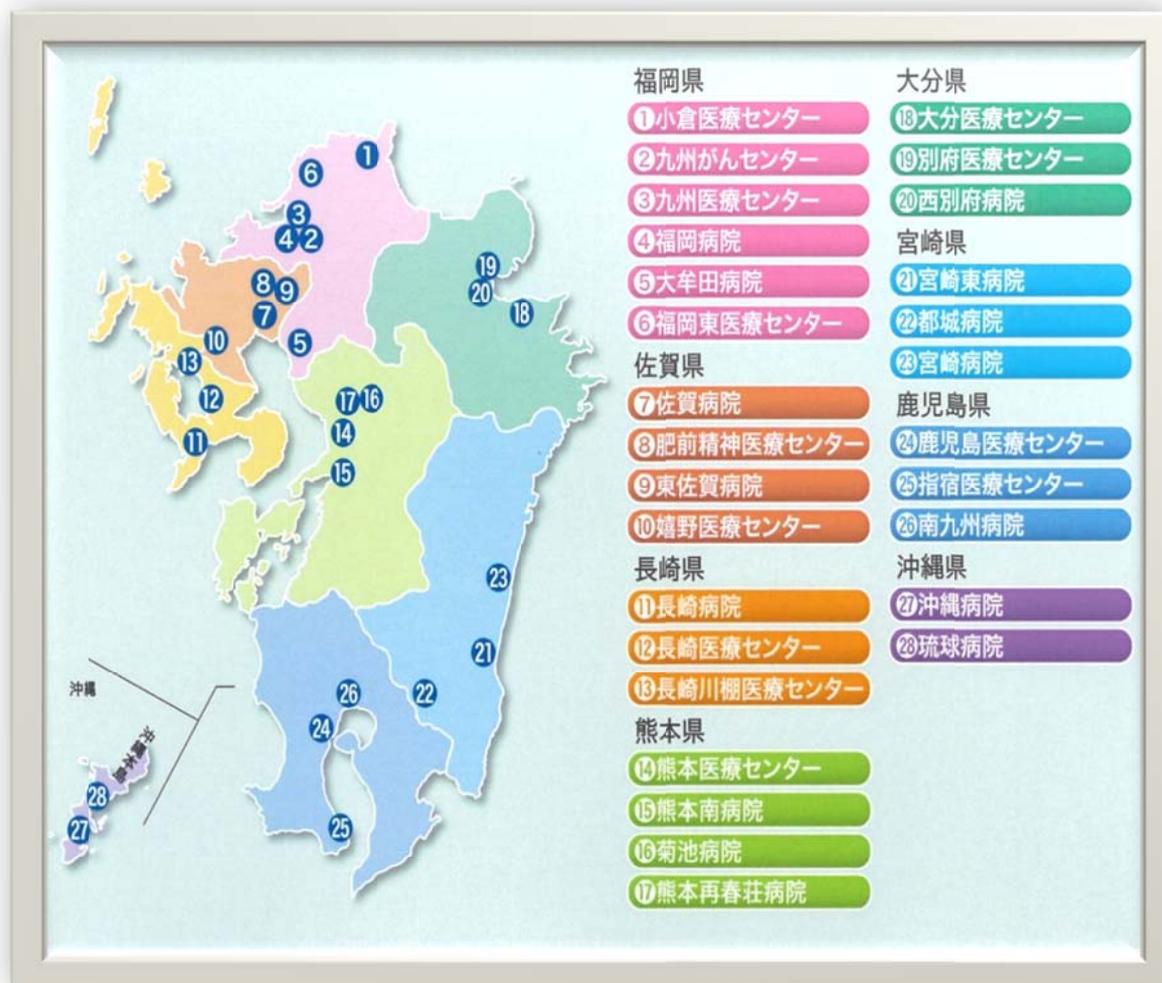
東日本大震災（H23 年 3 月発生）における被災地等への医療班派遣（のべ約 1 万人）をはじめとして、国内外で発生した災害等において職員派遣などを実施しました。



DMATのチーム



◆九州グループ内のNHO病院◆



九州グループ28病院は、福岡県に6病院、佐賀県・熊本県に各4病院、長崎県・大分県・宮崎県及び鹿児島県に各3病院、沖縄県に2病院あります。

これらの病院が、地域医療の中核としてそれぞれの専門性を踏まえた役割を担い、急性期医療から慢性期医療あるいは終末期医療に至る医療の提供を行っております。



九州グループ内の病院紹介

小倉医療センター



〒802-8533
福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘10-1
☎(093)921-8881

<http://www.kokura-hp.jp/>

北九州の小倉市街より南に位置した広大な敷地と緑に恵まれた病院です。2010年に新病棟がオープンし、「この街にはこの病院があるから住みたいと思われるような病院を目指します」を基本理念に、地域医療支援病院（県指定）として診療しています。がん、糖尿病、周産期医療、小児医療など、地域でニーズの高い医療の提供や臨床研究、研修・教育に頑張っています。

肥前精神医療センター



〒842-0192
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160
☎(0952)52-3231

<http://www.hizen-hosp.jp/>

精神神経疾患の基幹医療施設として、広域医療と専門医療を推進しています。「この病院で最も大切な人は患者さんである」を理念とし、人としての尊厳と人権を守り、信頼される医療を提供しています。また、高度の医療・臨床研究・教育研修の創造的統合を目指し、優秀な人材の育成に貢献しています。

九州がんセンター



〒811-1395
福岡県福岡市南区野多目3-1-1
☎(092)541-3231

<http://www.ia-nkcc.jp/>

九州ブロック内で唯一の「がん専門病院」として、一般総合病院等では担うことのできない「進行性がん」「難治性がん」の診療に力を入れ、高度先駆的医療を提供しています。H19年度に「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受け、がんの診療、研究、研修に関する情報提供を行い、がん医療の向上に寄与している病院です。

東佐賀病院



〒849-0101
佐賀県三養基郡みやき町大字原古賀7324
☎(0942)94-2048

<http://www.higashisaga-hosp.jp/>

「信頼関係を大切に、地域に根ざした良質な医療の提供」を基本理念に、地域の方々の健康を支えるため地域医療連携の強化や呼吸器疾患をはじめ肝臓・糖尿・小児等に関する専門外来の充実に力を入れています。また、九州で最大の4つの重症心身障がい児(者)病棟を有し、政策医療にも貢献しています。

九州医療センター



〒810-8563
福岡県福岡市中央区地行浜1-8-1
☎(092)852-0700

<http://www.kyumed.jp/>

高度先駆的総合医療施設で、特に脳血管センター、心血管・ハイクアセンターは地域における急性期医療施設としての役割を担い、地域医療支援病院として位置づけられています。エイズ・広域災害の九州ブロック拠点病院として、又、地域がん診療連携拠点病院の役割をもち、多様な医療のニーズに対応している病院です。

嬉野医療センター



〒843-0393
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿丙2436
☎(0954)43-1120

<http://www.uresino.go.jp/>

「信頼と心のゆとり」を基本理念に掲げた病院作りを目指しています。病院機能評価の認定を受け、循環器・整形外科・脳外科など急性期医療の地域中核病院です。地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院の認定を受けています。平成23年度には救命救急センターを開設し、院内のヘリポートでドクターヘリを受け入れています。

福岡病院



〒811-1394
福岡県福岡市南区屋形原4-39-1
☎(092)565-5534

<http://www.fukuoka-nh.jp/>

基本理念の「思いやり」のもと、患者さんやご家族に信頼される医療の提供に努めています。呼吸器疾患、アレルギー・リウマチ疾患、小児科、重症心身障がいをはじめ、専門性にすぐれた良質な医療と臨床研究、医療者教育、情報発信を目指すユニークな病院です。平成24年度には循環器内科、禁煙外来を開設し、病棟の建替えが始まります。

長崎病院



〒850-8523
長崎県長崎市桜木町6-41
☎(095)823-2261

<http://www.nagasaki-n.jp/>

当院は医療と福祉を橋渡しできる病院をめざして、障がい児(者)医療、看取り医療、地域リハビリテーションに力を注いでいます。地域の診療所、病院、福祉機関のそれぞれと連携をはかり地域になくならない病院となるよう取り組んでいます。病院環境は市の中心街より約10分の距離にあり、交通はきわめて便利です。

大牟田病院



〒837-0911
福岡県大牟田市大字橋1044-1
☎(0944)58-1122

<http://www.hosp.go.jp/~oomuta/>

当院は3本の柱として①呼吸器疾患と②神経筋疾患および③重症心身障がいという専門医療を担っています。これらの診療と研究、療養介護、療育を中心に実施しています。難病への挑戦、政策医療の遂行、県や全国の難病ネットワークや地域医療機関との連携を積極的に行い実績をあげています。また、平成23年11月より福岡県認知症医療センターの指定を受け、認知症の診断と治療にも力を入れています。

長崎医療センター



〒856-8562
長崎県大村市久原2-1001-1
☎(0957)52-3121

<http://www.hosp.go.jp/~nagasaki/>

全国13の高度総合医療施設の一つに認定され、わが国のモデル病院として良質な高度な医療を提供する役割を担っています。救命救急センターとしてより広域からの重症救急患者搬送のためドクターヘリを運航しています。安全で質の高い医療を追求し、災害拠点病院、地域がん診療拠点病院として患者さんに満足していただける病院を目指しています。

福岡東医療センター



〒811-3195
福岡県古賀市千鳥1-1-1
☎(092)943-2331

<http://www.fe-med.jp/>

当院は、呼吸器の基幹医療施設と、循環器疾患・内分泌・代謝疾患・重症心身障害の専門医療施設で、救急告示病院です。また、地域がん診療拠点病院・地域医療支援病院に承認され、平成18年より粕屋北部在宅医療ネットワーク事業へも参画し地域に根ざした病院を目指しています。

長崎川棚医療センター



〒859-3615
長崎県東彼杵郡川棚町下組郷2005-1
☎(0956)82-3121

<http://www.nkmc.jp/>

地域医療支援病院としての役割（地域連携・救急医療・教育研修・共同利用）を果たすとともに、セーフティネットとしての神経筋難病を中心とした政策医療も展開しています。電子カルテを始めとするIT化も十数年前から先進的に導入されています。また、平成28年には新病棟が完成する予定となっています。

佐賀病院



〒849-8577
佐賀県佐賀市日の出1-20-1
☎(0952)30-7141

<http://www.saga-hosp.jp/>

当院は総合周産期母子医療センターとして、6床のMFICU、12床のNICU、18床のGCUを有し、ハイリスク妊娠・分娩を積極的に受け入れる周産期医療を行っています。また、地域医療支援病院として承認を受けており、その他にもがん診療等を中心としてより高度で専門的医療を提供しています。

熊本医療センター



〒860-0008
熊本県熊本市中央区二の丸1番5号
☎(096)353-6501

<http://www.nho-kumamoto.jp/>

当院は、救命救急センターを中心とし救急医療に力を入れ、最新の知識と医療技術を持って、あらゆる疾患の診療に対応できる総合診療施設です。また、教育・研修・研究を推進し、国際医療協力の基幹病院として貢献しています。あなたも一緒に人権を尊重し、愛と礼節のある医療実践をめざしませんか！

熊本南病院



〒869-0593
熊本県宇城市松橋町豊福2338
☎(0964)32-0826

<http://www.hosp.go.jp/~kumanann/>

当院は、結核を含めた各種呼吸器疾患、神経難病疾患、糖尿病などの生活習慣病をはじめ、消化器疾患、循環器疾患、各種がんの外科治療や放射線療法、さらに、救急医療を含め、地域医療の充実を図っています。基本理念である地域に密着した、やさしく思いやりのある医療をめざし職員一同邁進しています。

菊池病院



〒861-1116
熊本県合志市福原208
☎(096)248-2111

<http://www.hosp.go.jp/~kikutihp/>

当院は、精神疾患・認知症・重症心身障がい者病棟及び医療観察法病棟を有する精神科専門病院です。「安心して相談できる心と脳の専門医療を目指します」を基本理念としています。認知症の医療モデル施設、老年精神医学会認知症学会認定施設として、先進的治療・研究をはじめ、精神科に関する各種人材の研修を行っています。

熊本再春荘病院



〒861-1196
熊本県合志市須屋2659
☎(096)242-1000

<http://www.hosp.go.jp/~saisyun/>

「患者様一人ひとりの人権を尊重し、思いやりの心を持って安心と信頼の医療を提供する」を理念に掲げ、神経筋疾患、重症心身障がい、育成医療、リウマチ骨運動器疾患の診療を担う政策医療専門施設であると同時に、県北部の中核病院として、救急医療、急性期医療、癌診療（肺、消化器癌）等の一般医療に力をいれています。

大分医療センター



〒870-0263
大分県大分市横田2丁目11-45
☎(097)593-1111

<http://www.hosp.go.jp/~oita/>

政策医療としてのがん・肝疾患診療を中心とした診療・臨床研究・教育研修を推進し、地域の中核病院として「愛の心・手」の理念のもと、病棟連携・病診連携による地域医療の推進及び、救急医療の充実を図り、最良の医療を提供しています。また、チーム医療に基づいたクリティカルパスを推進しています。

別府医療センター



〒874-0011
大分県別府市大字内電1473
☎(0977)67-1111

<http://www.beppu-iryuu.jp/>

良質な医療を良い療養環境で「患者中心の医療」を理念として平成20年8月に病棟完成。又、新外来棟が平成24年10月末に完成予定である。地域医療支援病院として地域に貢献し、地域がん診療連携拠点病院・地域小児科センター、地域周産期母子センター、及び大分DMATに指定され、救急医療・精神科・循環器科の専門医療を含む地域の拠点病院として役割を果たしています。

西別府病院



〒874-0840
大分県別府市大字鶴見4548
☎(0977)24-1221

<http://www.nbnh.jp/>

当院は、別府市の温泉地にあり、四季を通じて恵まれた景勝地にあります。神経・筋疾患や重症心身障がい児(者)、結核に関し大分県の基幹病院です。さらに、こども発達障がいセンター、神経難病総合センター・睡眠呼吸センター・九州リンパ浮腫センターを開設し、総合スポーツ外来も充実した地域とともに発展する病院です。

宮崎東病院



〒880-0911
宮崎県宮崎市大字田吉4374-1
☎(0985)56-2311

<http://www.hosp.go.jp/~mhigashi/>

当院は慢性呼吸不全・結核・肺癌等の呼吸器全般にわたり、内科的・外科的な診療を行っています。筋ジストロフィ・ALS・パーキンソンなどの神経筋難病の拠点病院でもあります。また、生活習慣病・循環器病の診断治療にて地域住民の健康管理に貢献しています。

都城病院



〒885-0014
宮崎県都城市祝吉町5033-1
☎(0986)23-4111

<http://www.nho-miyakon.jp/>

当院は、地域支援病院、地域がん診療連携拠点病院、宮崎県認定の地域周産期母子医療センターとして、がん治療・緩和ケア・NICU 3床有する高度な周産期救急医療を担う中核的総合病院です。平成20年5月に完成した新病棟また、24年4月に完成した手術棟は患者様の満足度を向上させております。

宮崎病院



〒889-1301
宮崎県児湯郡川南町大字川南19403-4
☎(0983)27-1036

<http://www.hosp.go.jp/~miyazaki/>

宮崎県の中央部に位置し、西都児湯医療圏で唯一の国立病院機構として地域から信頼され、選ばれる病院を目指しています。診療科は糖尿病・代謝内科・呼吸器内科・消化器内科・小児科・神経小児科・整形外科・放射線科を有しています。また、政策医療ネットワークの中では、重症心身障がい児(者)の専門医療施設として位置付けられています。

鹿児島医療センター



〒892-0853
鹿児島県鹿児島市城山町8-1
☎(099)223-1151

<http://www.kagomc.jp/>

「循環器病・脳卒中・がん診療」を3本柱とし、循環器基幹医療施設、がん診療連携拠点病院の指定を受け、急性期病院としての役割を担い、病む人と家族の目線に立った、わかりやすく質の高い医療を地域の医療機関と連携・機能分担し、提供しています。

指宿医療センター



〒891-0498
鹿児島県指宿市十二町4145番地
☎(0993)22-2231

<http://www.hosp.go.jp/~ibusuki1/>

指宿地区の中核病院として、政策医療ではがん・成育医療を担い、二次救急や小児救急等の救急医療の充実を図っています。また、地域支援病院として地域医療の質の向上のため幅広い分野で研修等を企画し、地域に貢献しています。

南九州病院



〒899-5293
鹿児島県始末市加治木町木田1882
☎(0995)62-2121

<http://www.skyusyu.jp/>

院は「病む人に学ぶ」のもと患者さまと地域に信頼される病院を目指しています。がん、呼吸器疾患、神経筋疾患、小児医療及び重度心身障がい児(者)の療育を中心に地域の中核病院としての役割を担っています。平成17年に緩和ケア病棟を開設し、平成20年2月にがん診療連携拠点病院の指定を受けました。

沖縄病院



〒901-2214
沖縄県宜野湾市我如古3-20-14
☎(098)898-2121

<http://www.okinawa-hosp.jp/>

入院患者の90%は呼吸器疾患（肺病・結核その他）および筋ジストロフィー・神経難病で占められ、診療内容は政策医療でほぼ特化されています。沖縄県はその立地の特性から県内完結型医療が求められるので「呼吸器センター」「神経・筋センター」「がんセンター」としての診療内容の充実を目指しています。

琉球病院



〒904-1201
沖縄県国頭郡金武町字金武7958-1
☎(098)968-2133

<http://www.hosp.go.jp/~ryukyu1/>

沖縄県本島北圏の精神科専門中核病院として、精神科における救急、老年期、薬物・アルコール依存症、重症心身障がい児(者)の医療を行っています。また、社会への復帰へ向け多職種チームによる専門的な訪問活動を展開しており、地域医療連携機能が充実しているのも特徴です。

◆事務部門組織・業務概要◆

■ 企画課（経理部門）の業務

企画課（経理部門）では、医薬品や医療材料の購入、業務委託、病院の建替工事などの契約に関する業務、各種財務諸表の作成、病院の債権・債務の管理などを行います。

企業会計制度に基づいた透明性の高い会計処理を目的として業務を行っております。

■ 企画課（医事部門）の業務

病院の収入源である診療報酬の管理に関する業務を行います。入退院や外来患者の受付、診療費の計算や請求、診療報酬に関する分析、地域の医療機関との連携など、主に病院の収益にかかる業務を行う部門です。

また、医療訴訟に関する対応や医療関係法令に基づいて行う各種手続きなども重要な業務の一つとなります。

■ 経営企画室の業務

病院経営を総合的にマネジメントするために経営に関するデータを検証・分析し、病院の運営方針、経営戦略などの意思決定を行うための情報発信や企画立案を行います。

財務状況を分析し、病院の運営を戦略的に推進する牽引役を果たします。

■ 管理課の業務

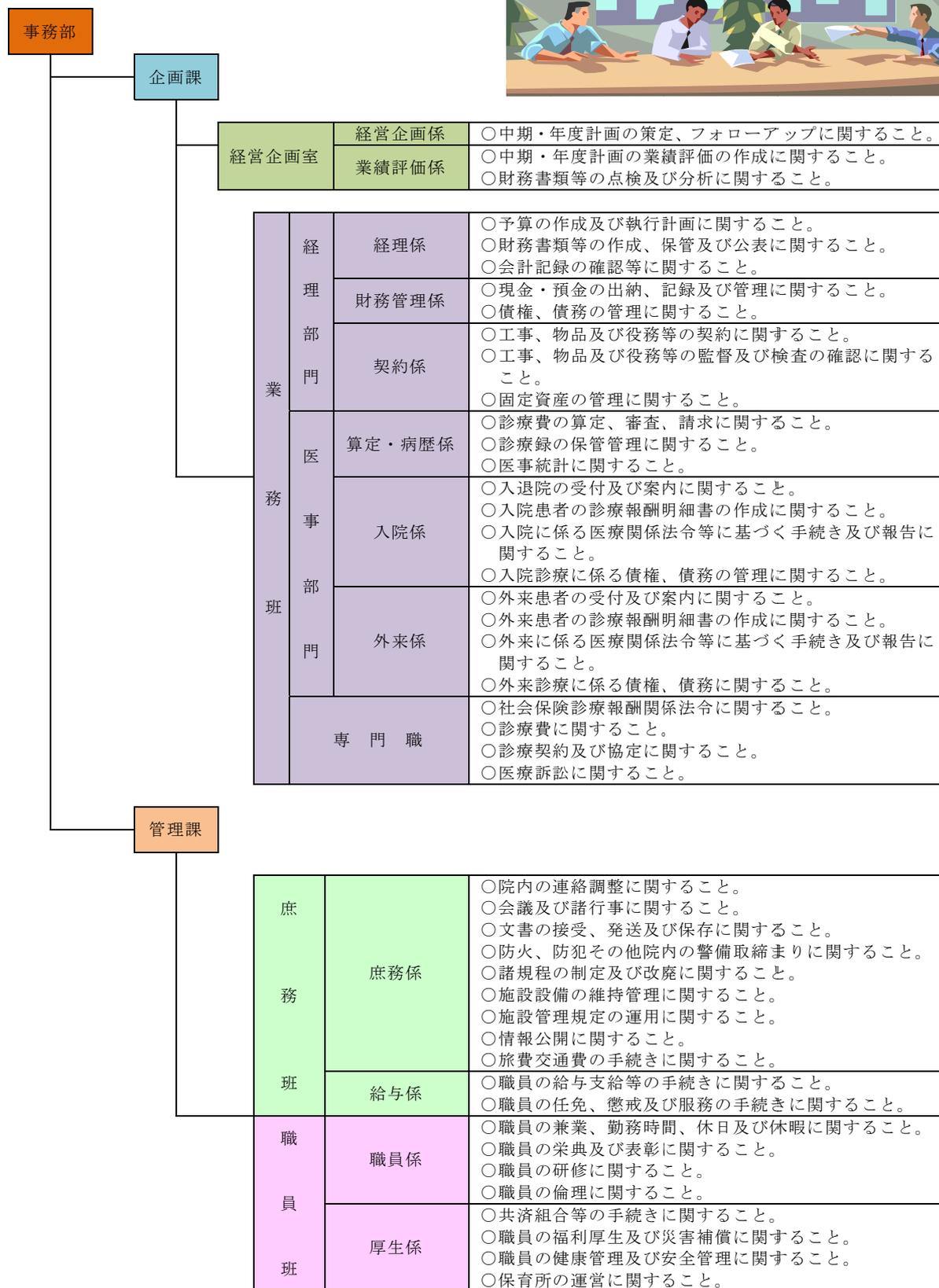
職員の人事・給与に関することや労務問題等を取り扱います。

病院は医師や看護師など様々な職種が集まって医療チームとして活動していますが、全ての職員の給与や福利厚生に関する業務を担うほか、その多様な人材を最大限に活かすための配置計画を策定したりもします。

また、研修などに関する業務や各部門間の連携をスムーズに行うための連絡・調整役としての役割も担います。



◆事務部門の組織詳細と業務概要◆



◆異動・昇進◆

基本形

・基本的に一般職員（係員）の間は、採用された病院で勤務します。そこで2～3年の周期で様々な業務を経験し、28歳前後で係長へ昇任するための選考を受けて係長へ昇任します。係長昇任時に病院間を移動する転勤をすることとなり、その後は概ね3～4年の間隔で病院もしくは担当業務を異動しながら多くの経験を積み、より上位のポストへキャリアアップしていきます。

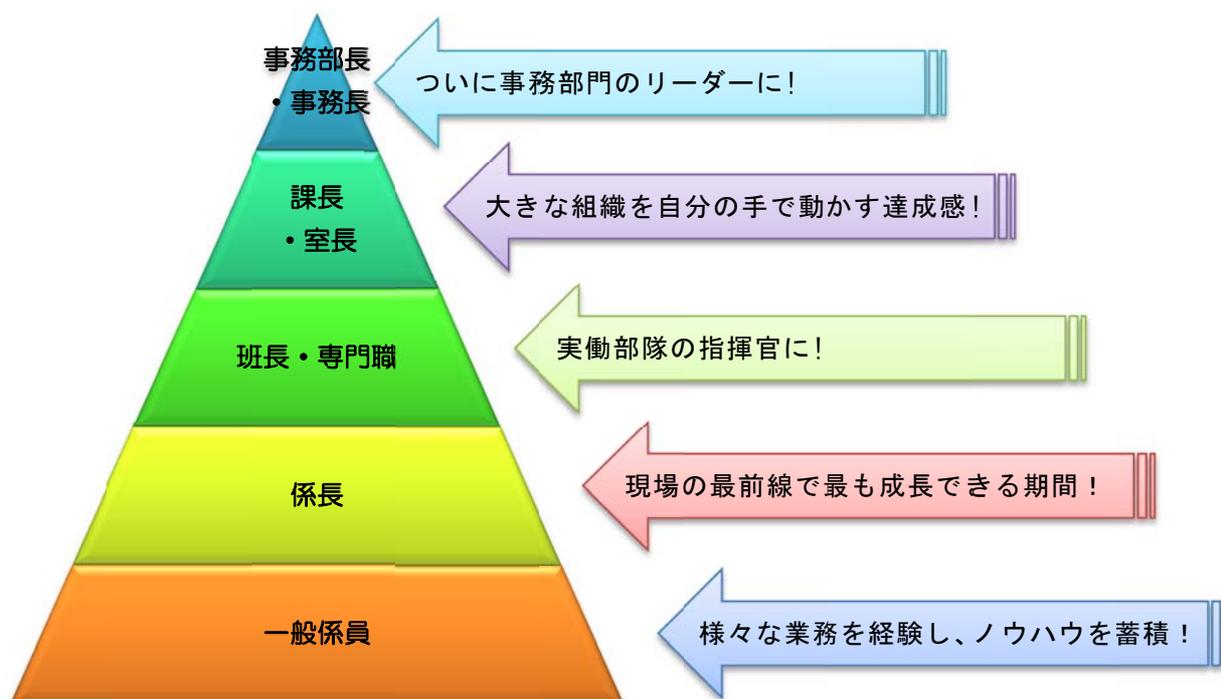
魅力

・国立病院機構の魅力は、独立行政法人であることです。国の機関は決められた業務を行っていくものが大半ですが、国立病院機構は各病院でそれぞれに収入と支出を考慮しながら業務を行うため、ある意味では病院単位で完結した組織と言えます。

・従って、職員個人個人の裁量範囲が広く、各々の判断や行動が病院組織の運営に大きく反映されるため、自分の仕事を肌で感じることができます。特に幹部職員になると、自分の決定や決断が病院の運営に直結するケースも少なくなく、他の国の機関にはない大きな達成感を得ることができます。

可能性

・国立病院機構内の異動以外に、厚生労働本省、地方厚生局及び国立ハンセン病療養所等との人事交流（転勤）も行われており、幅広いステージで活躍することができます。



◆研修制度および事務職員人材育成プログラム◆

国立病院機構では、職員として各種の業務を行っていくために、また、職業人としての資質を高めるために、病院個々の内部研修やグループ・国立病院機構本部主催の研修など、様々な研修に参加する機会を数多く設けています。

事務職員については、国立病院機構の制度・会計規則・医療関連の知識等を身につけてもらうために、経験や業務に応じた各種研修を実施しています。

また、事務職だけではなく、医師・看護師・コメディカル等の他職種も参加する宿泊研修も行っています。

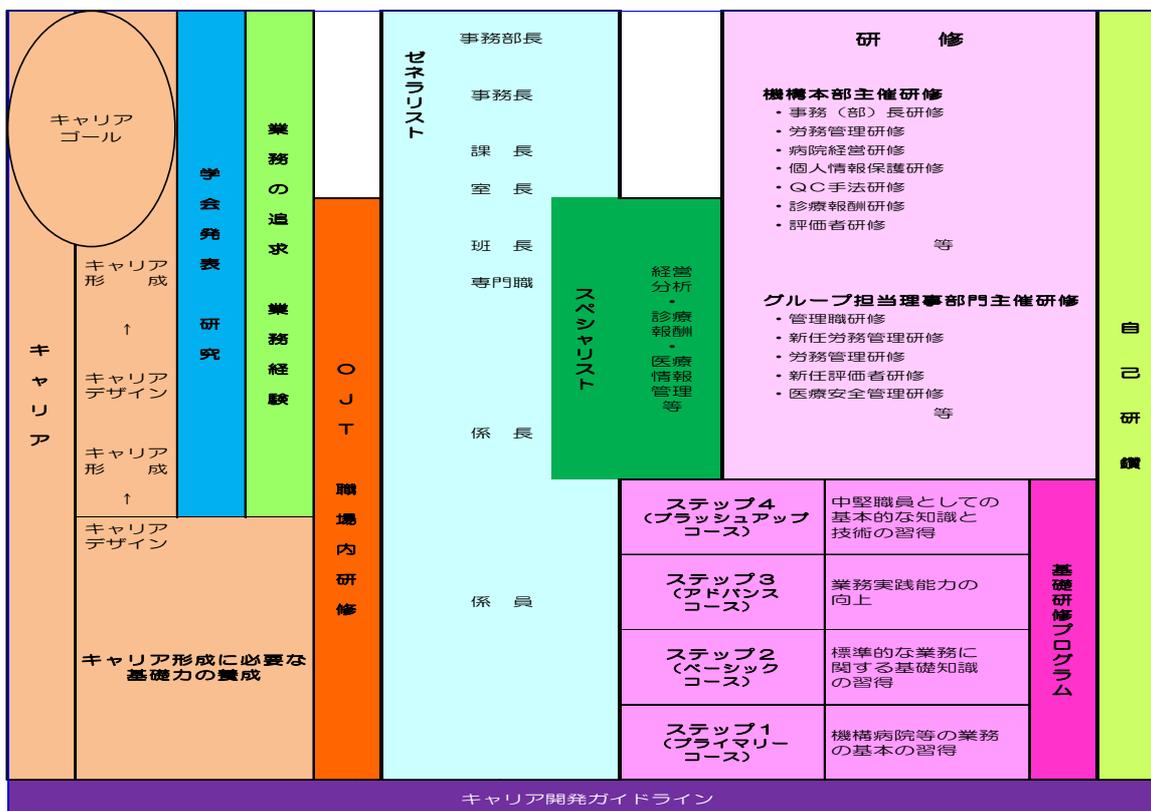
「他の病院や異なる職種の研修生と交流し、様々な意見や考え方に触れることができ有意義でした。」と大変好評です。

毎年行われる『阿蘇宿泊研修』。
職種不問の若手職員研修です！



■事務職員人材育成プログラムのイメージ図

事務職員が目指すべき姿（キャリアゴール）を明確にし、それに向けて職員が成長するための支援体制を構築することにより、職員の積極的な研修参加や自己学習及び業務実践を通じて、職員の資質の向上に寄与することを目的としています。



◆ 処遇・福利厚生 ◆

国立病院機構では、国家公務員の制度に準拠した給与、諸手当及び勤務時間・休暇制度等を就業規則として定めています。

(H26.4月現在)

給与等

初任給	基準額に学歴や経歴を積み上げて決定します。 (例) 4年制大卒(新卒) 約170,000円
昇給	年1回
諸手当	住居手当、通勤手当、扶養手当、超過勤務手当、 業績手当(ボーナス)、地域手当など 全18項目

勤務時間

休日

休暇

勤務時間	8:30~17:15 ※ほかに当直勤務があります。 (当直手当あり。)
休日	土曜、日曜、祝日及び年末年始 (12月29日~1月3日)
休暇	年次休暇: 20日(翌年繰越し20日まで可能。) 特別休暇: 夏期休暇、結婚休暇、産前・産後休暇、 忌引休暇など 病気休暇: 最大90日まで。
その他	育児や介護のための制度などがあります。 (別紙をご覧ください。)

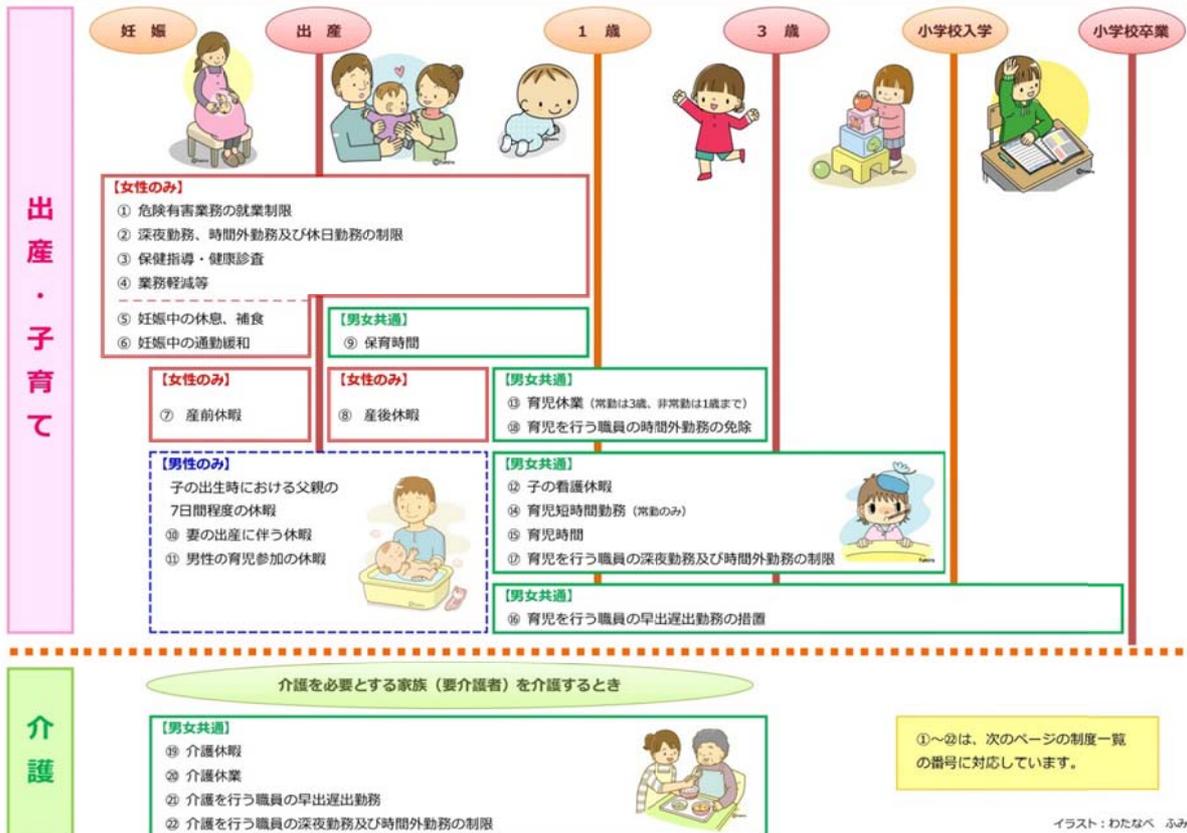
福利厚生

健康保険や年金など国家公務員共済組合に加入します。

国立病院機構では、次世代育成支援対策推進法に基づき、職員の仕事と子育ての両立に取り組むために一般事業主行動計画を策定しています。



ワーク・ライフ・バランスに関する制度の利用可能期間など



◆事務職員に求められるもの◆

- ・ チームワーク力（コミュニケーション力）
- ・ 状況適応力
- ・ ヴァイタリティ
- ・ プレッシャーへの耐力



◆採用情報◆

応募方法や試験日などの
採用試験の詳細につきましては、
後日、ご案内させていただきます。

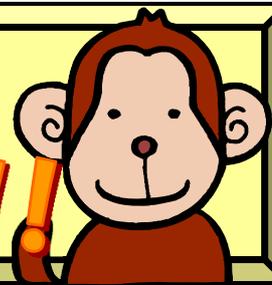
お知らせ



私たちと一緒に、
病院経営のプロフェッショナルとして、
医療の未来を切り拓きましょう！！



皆様のご質問に お答えいたします!!



● 皆様からよくお尋ねがある質問に、人事担当者がお答えいたします。

Q: 独立行政法人とは何ですか？



A: 独立行政法人とは、国が行っている事務・事業のうち、公共上の見地から確実に実施されることが必要なもので、民間に委ねた場合には必ずしも実施されないおそれのあるものについて、効果的かつ効率的に事業を行わせることを目的として設立される法人です。

なお、国立病院機構は、平成16年4月に旧国立病院・国立療養所が独立行政法人として発足したものです。

Q: なぜ独立行政法人となったのですか？



A: そもそも国の機関の独立行政法人化は、行政機関の効率化の一環として実施されたものです。政策立案機能と実施機能を分離することにより、政策立案部門の企画能力を高める一方で、実施部門の組織とその運営方法を、事業の内容・性質に応じた適切なものに転換することで効率性の向上・サービスの質の向上を図ることができるというわけです。

旧国立病院・国立療養所は国民に医療を提供するという「実施部門」であり、まさに効率の向上・サービスの質の向上を目指して「国立病院機構」という独立の法人格を有した「独立行政法人」として再発したものです。

Q: 独立行政法人となって何が変わりましたか？



A: 国の機関である頃は、組織面では法律で決められた固定的な組織と人員の範囲内で、また財務面では詳細な支出項目と額が決められた予算の範囲内で、の運営が義務づけられており、病院独自の特徴が発揮しづらい環境でした。しかし、『独立行政法人』に移行したことによりそれらの規制が外れたため、組織体制や財務運営の自主性・裁量範囲が格段に拡大し、より各病院の実情に応じた適切な運営を行うことが可能になりました。

Q: 平成27年4月1日から『非公務員型』になることで何が変わりますか？



A: 独立行政法人通則法の一部改正に伴い、より柔軟かつ弾力的な業務運営に資するために『非公務員化』されることとなりました。

具体的には、今まで適用されていた国家公務法等の適用を受けなくなります。これらについては、今後、国家公務員に準拠した就業規則を定める予定です。

なお、給与や勤務時間等については、平成16年4月の移行時から国家公務員に準拠した独自の就業規則を定めています。

Q: 転勤はありますか？



A: おおむね3年～5年ごとに転勤もしくは同じ病院内での担当部署の異動があります。勤務地の変更を伴う異動としては、九州グループ内28病院及び九州厚生局・国立ハンセン病療養所などがあります。また、国立病院機構本部や厚生労働省などで勤務する機会もあります。

Q: 医療に関する知識は必要ですか？



A: 病院で働くにあたり医療の知識は必要ですが、採用にあたって医療の知識があることを要件とはしていません。採用されてから研修や業務を通じて必要な診療報酬制度をはじめとする医療制度に関する知識を学んでいきます。

Q: 採用時は希望した病院に配属されますか？



A: 採用時は、沖縄を除く九州内のいずれかの病院に配属されます。採用病院の決定に当たっては、本人の希望も最大限考慮しますが、各病院の欠員状況などもありますので、必ずしも希望の病院に採用されるとは限りません。

Q: 残業はありますか？



A: 業務の効率化を図り、残業を縮減するように取り組んではいますが、毎日、勤務時間終了後すぐに帰宅できるという訳ではありません。部署ごとに繁忙期や閑散期があり、繁忙期には超過勤務命令をされることがあります。しかし、閑散期にはスケジュールを調整して休暇を取るなどし、メリハリを持って仕事にあたるようにしています。

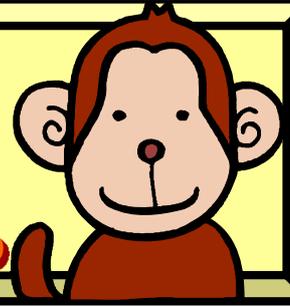
また、勤務病院にもよりますが、月に2～3回程度宿直があります。

Q: 女性が働きやすい環境は整っていますか？



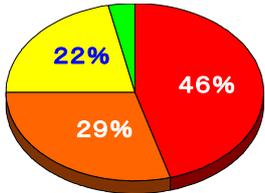
A: 男女によって仕事内容の違いはありませんので、女性職員も男性職員と同じように働いています。出産や育児などについての休暇・休業制度が保障されていますので、育児休業などを取得して、その後復帰する職員もいます。

若手職員100名に 質問してきました。



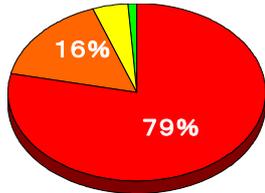
国立病院機構で働く独法化以降に採用された若手職員の『ホンネ』です。
採用後の生活を考える上での参考に、ご一読いただければ幸いです。

○初めて配属された部署は？



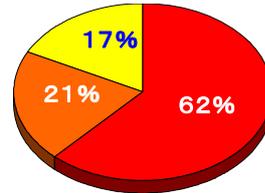
■業務班会計関係 ■業務班医事関係
■庶務関係 ■経営企画関係

○あなたの通勤時間は？



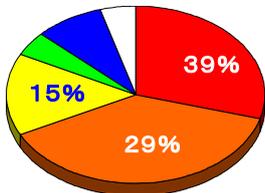
■30分未満 ■30分以上1時間未満
■1時間以上1時間半未満 ■1時間半以上

○あなたの住居は？



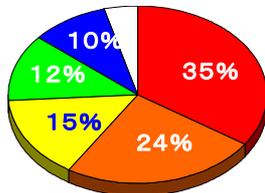
■アパート・マンション ■自宅 ■宿舍

○お昼ご飯はどこで食べていますか？



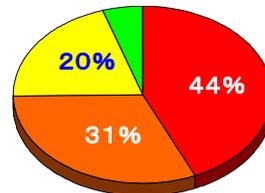
■自分の机 ■休憩室 ■家
■近くの食堂 ■病院内の食堂 ■その他

○アフター5の過ごし方は？



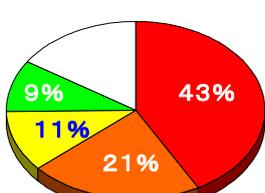
■趣味の時間 ■テレビを見る ■ひたすら寝る
■友人・知人と会う ■お酒を飲む ■その他

○あなたが仕事をする上でのやりがいは？



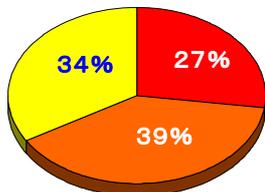
■仕事の達成感 ■人的交流が増えた
■患者様の笑顔 ■その他

○仕事で役立った学生時代の経験は？



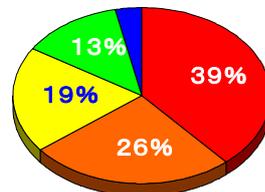
■アルバイト ■学校の授業 ■サークル
■自分の趣味 ■その他

○初めての勤務地は希望通りでしたか？



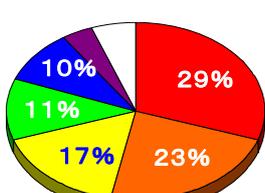
■希望通り ■まあまあ希望通り
■希望した勤務地ではなかった

○『希望した勤務地では無かった』方へ、実際に赴任しての感想は？



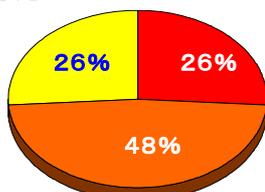
■良い ■まあまあ良い ■普通
■あまり良くない ■悪い

○初ボーナスの使い道は？



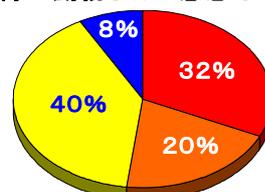
■親孝行 ■貯金 ■生活費
■趣味 ■自分へプレゼント ■恋人へプレゼント
■その他

○初めての配属部署は希望通りでしたか？



■希望通り ■まあまあ希望通り ■希望した配属部署ではなかった

○『希望した配属部署では無かった』方へ、実際に勤務しての感想は？



■良い ■まあまあ良い ■普通
■あまり良くない ■悪い

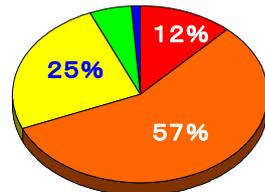
○若手職員からみた『国立病院機構』のいちおしポイント

- ・他職種の人と交流が持て、他の省庁にはない様々なつながりができます！
- ・患者様の『ありがとう』や笑顔に癒され、働く意欲になります！
- ・医療現場の最前線で働けるため、自分の仕事の成果がすぐに目に見える形で現れます！

○先輩からの一言

- ・かわいい後輩を待ってます。一緒に頑張りましょう！
- ・『やる気』と『元気』のある後輩を待っています！
- ・自分次第で将来が切り拓ける職場です。一緒に働きましょう！

○就職先としての国立病院機構の点数は？



■100点 ■80点～99点 ■60点～79点
■40点～59点 ■20点～39点 ■0点～19点

お問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構九州グループ 人事担当 人事係

〒810-0065 福岡県福岡市中央区地行浜1-8-1

TEL: 092-852-1726

URL: <http://www.hosp.go.jp/~kyushu/>

mail: kyushu-info@hosp.go.jp

